

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400146		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム袋井やすらぎの家 (1階)		
所在地	静岡県袋井市木原439-4		
自己評価作成日	平成28年10月28日	評価結果市町村受理日	平成28年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JirvosvoCd=2276400146-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR袋井駅から車で10分の田園地帯に立地している。歩道や近辺では季節の花が咲き誇り、田植えや稲刈りの様子も眺められる環境にある。ご近所の高齢者に気軽によって頂き、野菜や果物等を分けて頂き、入居者と共に食事に活用させていただいている。今年は入居者の希望により、花壇を整備し花苗を植えている。近隣の中学生福祉体験や介護ボランティアの方々、ご家族の音楽ボランティアの参加も積極的に受け入れている。また、市内の徘徊ネットワークにも登録し、入居者やご家族にも安心して頂けるよう環境作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春にはれんげ草、秋は稲刈りやコスモスと風物に事欠かない、自然溢れる地域に事業所があります。出迎えから共用空間に至る道筋ですれ違う職員は総じて笑顔で人柄のよさが滲み、利用者の佇まいからもものびのびとした暮らし向きが感じられます。理念「自由に ありのままに居心地の良い やすらぎの家」の実践が叶っている一方で、地域交流も「事業所前の道沿いにコスモスの種を蒔いたり」「花火大会鑑賞に近所の人が集まったり」と大変有意義に進んでいます。グループホームの原点となる食事づくり、散歩、地域交流…一つひとつ丁寧に取組もうとする姿勢が秀でていて、長年勤め続けた職員のチームワークに信頼が膨らみます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、入居者の気持ちに寄り添いながら、穏やかな日々を過ごせる様取り組んでいる。また、1人1人のケアを充実したものになるよう取り組んでいる。	大きな声で笑ったり、涙ぐんだりと喜怒哀楽も豊かで、流れる空気も柔らかくのびのびとした暮らし向きが感じられます。「自由にありのままに居心地の良い やすらぎの家」の実践は実っているように映りますが、会議で唱和したり、質問しての意識づけも継続されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	公民館行事や近隣の神社・寺社等の行事に参加している。散歩時の交流を経て野菜を頂くこともある。	自治会長から入る地域行事のチラシが各館に貼り出され、利用者も立ち止まって「この人知ってる」と関心をもったり、職員と出向くこともできています。寺社でのコンサートや説法ではお茶の提供があり、花や野菜が届いたりふれあいが膨らんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回の広報誌を作成し、施設の在り方や出来事・予定等を伝え始めている。また、施設の駐車場でご近所の方の憩いの場となる事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の推進会議での意見を計画作成者と話し合ったうえで、職員会議に取り入れる事がある。	偶数月の第三月曜日と定めているため地域と行政における参会の人数は満たされていますが、家族の出席は得られていません。昔懐かしい甘酒を堪能できる集いや演奏会へ車いすを利用する人も含め全員で出かけることも、本会議での話し合いから叶っています。	「年1回は～」家族が参加しやすい日程にする、家族に必要なテーマを設定する、家族に内容を要約して渡すことで理解を得る等、手厚い改善策を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年1～2回推進会議に参加して頂き、また、市主催の部会や会合に参加し、意見交換をしている。	運営推進会議を通じて長寿保健課職員には年数回来訪してもらっており、また事業所も窓口にも月数回出向くほか、生活保護者の入居相談があれば快く受けています。行政を通じて相談員も受入れ、書面でもらう意見も気づきの材料としています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回の研修を行いながら、カンファレンス・職員会議でも議題に取り上げ取り組んでいる。	神奈川県での事件を以て市役所から安全最優先として「施錠を～」との通達があり、現在玄関・ユニットを「意識して施錠」しています。何気にでしてしまうスピーチロックはその場で「それは～」と言える文化があり、また前向きな意欲は就業後の論議に展開することもあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の研修に加え、フロアカンファレンスも行い、職員間でも注意しあい、虐待行為が無いよう気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や外部研修を受け、職員会議で報告し、全職員の向上に努めている。状況によっては活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の施設訪問時や契約時に書面と同時に概要説明を行っている。契約解除の際も十分な説明をすると共に、必要時は退去後も相談を受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に第三者機関の苦情相談窓口を明記すると共に、玄関に意見箱を設置し、意見や苦情を聞けるような取り組みを行っている。	請求書を郵送せず家族に来所をお願いすることでフェイスTOフェイスでの報連相が月1回実現しています。充実のコミュニケーションに因り「おむつが高いからなんとかならないか」との家族意見では、試行錯誤した結果、利用者本人がトイレでの排泄ができるまでに向上した例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月末の職員会議や計画作成者との会議等で職員間の意見交換をし反映出来るよう努めている。また、日常業務の中でも意見交換しやすい環境作りを心掛けている。	会議前に議題をアナウンスしており、書式のフォーマットや食材費など多岐な分野での提案があり、是正に向け都度検討しています。家宅の綿あめ製造機を持ち込んで行事を盛り上げたり、庭の生花を置いたりと長年働く職員の無償の応援があり、無言実行が行き渡っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所有者には資格手当の支給があり、施設の努力の功績により、職員の手当に反映される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後からの研修を行っており、市主催の研修等への参加を推奨している。また、研修後は職員会議等での報告する場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外において、研修や講演会等での交流の機会を設けている。また、法人内の他施設での会議にも参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面会時に本人との時間を設け、これまでの生活歴・現状・気持ち等を聞き入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面会時や施設訪問の際に、家族の気持ちを察するよう努め、入居後も交流を重要と考え努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前からの両者の思いをくみ取り、相談しながらその時の状況の最適な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係性の前に、人と人との繋がりを大切にしながら、一緒に日々を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来設時には、職員との会話も充実なものとして、職員間で共有している。また、電話連絡等も重要なものとしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも家族や知人、近隣の方々との面会や外出することにより、なじみの関係が継続出来るよう支援している。	ウクレレを持ち込み、日に何度も弾き語りを披露する人、宝くじを購入して腹巻に忍ばせては近くの神社に1日と15日に油揚げを奉納する人、日記をつける人、阪神タイガースファンで試合を見逃さない人、将棋センターに打ちに行く人と、それぞれが多彩な趣味を継続しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が1人1人を把握し、入居者間のユニットにこだわる事無く、気の合う方同士のコミュニケーションも取れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連携を取ったり情報交換等対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	法人グループ独自のセンター方式を取り入れた書式を活用し、アセスメント情報以外を日常的に拾い、観察しながらカンファレンスを行う。	日々の記録は「介護詳細」、新たな発見を「情報表」に残すなか、「何もできない」と言われて入居した人が今では台所仕事に励み、折り紙も率先してつくっています。顔を覚えていないと認識していたところ、実はわかっていたということもあり、「よく見て、よく聴けて」が功奏しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報や入居後の様子、会話等からの情報把握を、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察・介護詳細を記録し、申し送りを含めて日々の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の本人の様子や要望、家族関係者との連携も踏まえてカンファレンスを行い作成している。3か月毎にモニタリングも行っている。	散歩や入浴で1対1となる場面では発語も増え、「介護記録」「介護詳細」にも記録を取ってカンファレンス及び介護計画書に反映させています。サービス担当者会議には極力利用者本人にも参加してもらっていることを書面確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・介護詳細・申し送りノート等、職員全員で情報共有し、計画の見直しに活かす努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	将棋倶楽部や外食、花を植えたり、知人や家人との外出、趣味等要望になるべく応じている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設主催の行事への呼びかけや、学校の福祉体験の受け入れ、近隣の行事への参加と共に、地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の意向を確認し、馴染みのかかりつけ医の受診継続支援と共に、指定医での受診・往診の体制も整えるようにしている。	従来のかかりつけ医を続ける利用者は5名おり、家族が受診に付き添っています。事業所でも必要に応じてバイタル等情報を用意して家族に持参してもらい、戻ってきたときには口頭で変更点をしています。	高齢な家族もいるため医療情報のやりとりについて改めて現状の方法でよいか見直すことを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の定期来設時において、情報交換や相談・アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院中の看護師との情報交換を行っている。また、病院での後方支援会議にも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書から方針を説明し、本人や家族の意向を聞いている。主治医とも相談し、入院の場合は退院時に受け入れ先が決まる。見取りの事例はないが、今後検討していく。	看取りの経験はありませんが「やりましょう」ということになっています。職員の中には不安や怖さをこぼす人もおり、またかかりつけ医に24時間対応が可能かは確認できておらず、課題は山積していますが、現在特段急ぐ症状の利用者はいません。	初めてとなる職員のために研修会など対策を徐々に進めることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応については、マニュアルに沿って年2回講習を行い、落ち着いて対応出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、内1回は夜間想定を行っている。地域防災訓練に職員が参加している。また、風水害マニュアルも作成し、すぐ観覧できる場所に配置してある。	年2回の法定訓練をおこない、また炊き出し企画といったチャレンジを日々模索しています。事業所の駐車場は地域の避難場所となっていますが、訓練には職員のみで利用者は未だ参加できていません。	消防署職員の指導はここ5年受けていないということですので、次回は是非依頼して最新の防災情報を入手することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷付けない様、個々に合わせた声掛け等ケアを行っている。また、接遇研修は毎月職員会議で行っている。	職員会議の議題としてエコと接遇は定番として位置付けられ留意しています。食事介助でも何回もおなじことを繰り返す利用者に優しくかわるとともに、「なら自分でやれよ」と非難する他の利用者のことも諫めず「これも召し上がってください」と声をかけている様子を視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で何気ない会話にも重点を置き、気持ちを楽に表せるよう努めている。自己決定の困難な場合は助言をしながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースや体調に合わせ、その人らしい日々を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気慣れた洋服や髪型等、本人や家族の気持ちに沿える支援をしている。また、新しく購入する際は自分で選ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配食材を使用し、野菜の皮むきや炒めたり、味付けを決めている。時には食べたい物をメニューに取り入れている。	業者搬入もありますが、半分程度は職員が買い出して地産地消の新鮮な献立を提供しています。利用者にはできることはやってもらい、皆でつくっていて、ピーラーを駆使して丁寧に人参の皮むきをする男性利用者も見かけました。誕生会には回転寿司の夕食となることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と連携を図りつつ、個々に合った食事形態の工夫やとろみ剤の使用等をし、安全に摂取出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後や個々に応じたケアを実地している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の能力に沿ったケアを行っている。なるべくトイレでの排泄習慣が付くよう取り組んでいる。	男性用便器の扉は開閉式のアコーデオンカーテンで、1号館では見識が低くなった利用者のために常に開けています。普段の生活も儘ならずとも2号館では「トイレです」と勇んで臨む利用者もいます。往々にして壮健で、洗面所を配したトイレで自ら手を洗う人が多くいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医、家族共育しながら、水分補給を行っている。個々により、乳製品を取り入れる事もある。日常動作の中の運動にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望日や時間には添えられないが、希望があれば、他フロアでも入浴希望者の要望にも応えている。	1号館はピンク、2号館はグリーン、3号館はイエローと彩のタイル貼りに囲まれ、浴槽には茶がらが入り、時には近所や家族から届くゆずや蜜柑が浮かぶこともあります。2日おきの入浴を楽しみにする人は少なく、拒否に苦慮していますが、工夫を凝らして清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	もれまでの習慣を損ねない様、また、使い慣れた寝具類を使用して安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容は個人ファイルにて、全職員が把握出来るようにしている。服薬時は名前・日付を声に出して確認している。また、状態観察も怠らない様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り・後片付け・買い物・掃除等、今までの生活の中でできていた事を、無理なく行えるよう支援している。そして趣味も続けられている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・外気浴・ドライブ・買い物等は日常的に行い、地域のイベントにも、希望に沿って支援している。外出や外食・外泊等も支援している。	好天なら午前の散歩が慣行され、「行きたい」となれば歩行器を押す人や車いすでも何度も職員が付添い、1対1となれる機会として会話も弾みまです。協力医には月15日ほどかけて1日2名前後の通院介助がおこなわれ、ドライブ外出の一環ともなっています。	春の花見などはありますが、四季を通じて外出行事があることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、家族同意のもと所持されている。受診や買い物・銀行の際にお金を渡し、本人に支払って頂く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の許可を得、電話を使用されている。手紙・荷物等は本人に渡しており、郵便物も可能な方は一緒に投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節が感じられるよう花を飾ったり、入居者と共に作った物を掲示している。	1号館には段ボールで樹木、折り紙で紅葉を現した壁画が、2号館はクリスマス装飾が、3号館は試行錯誤の途中と、ユニット毎にレクリエーションの取組みがみられます。一方で清掃の質は共通に高く、職員の定着率とチームワークの賜物と受けとめられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに3人掛けのソファが2台あり、椅子も所々に置き、それぞれが自由に寛いで頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で、使用していた馴染みの生活用品を使用できる旨を伝え、実地している。	「野球観てるよ」と穏やかな表情で話す利用者の部屋にはテレビがあります。椅子に柄のはいった布カバーをかけたリ、整容のための消耗品にはその名称がマジックで書かれていたり、整理ボックスに読み物を並べている様子からは、本人の自立支援がきめ細やかにおこなわれていることが観えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリー・手摺り設置等安全に移動出来る様配慮している。トイレ・浴室は分かりやすい様表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400146		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム袋井やすらぎの家 (2階)		
所在地	静岡県袋井市木原439-4		
自己評価作成日	平成28年10月28日	評価結果市町村受理日	平成28年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JirvosvoCd=2276400146-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな環境の中で、その方が歩んでこられた生活を大切に、自分だったら、家族だったら、との思いを抱きながら今できる事の継続をし、その人らしい生活をして頂くためのお手伝いをしていく。また、散歩に出かけた時は、田畑や境内におられる方とお話をする事、幼稚園や中学生・ボランティアの方々の来設により、地域の交流に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春にはれんげ草、秋は稲刈りやコスモスと風物に事欠かない、自然溢れる地域に事業所があります。出迎えから共用空間に至る道筋ですれ違う職員は総じて笑顔で人柄のよさが滲み、利用者の佇まいからもものびのびとした暮らし向きが感じられます。理念「自由に ありのままに居心地の良い やすらぎの家」の実践が叶っている一方で、地域交流も「事業所前の道沿いにコスモスの種を蒔いたり」「花火大会鑑賞に近所の人が集まったり」と大変有意義に進んでいます。グループホームの原点となる食事づくり、散歩、地域交流…一つひとつ丁寧に取組もうとする姿勢が秀でていて、長年勤め続けた職員のチームワークに信頼が膨らみます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由にありのままに居心地の良い」を事業所の理念とし、笑顔で接し、安心感を持って頂ける様心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、散歩・買い物等の時、地域の方とお話したり、定期的に中学生の福祉体験・秋祭り等で子供達と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営委推進会議等で地域の方々に理解して頂けるよう、民生委員・正副自治会長・包括職員・家族に方々をメンバーとして開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会・包括委員・民生委員・家族の方々と交えて情報交換をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括センター・市役所等訪問や電話等で情報交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼・研修受講等で職員は身体拘束についての知識を持ち、ケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を受けたり、職員会議で議題に取り上げ話し合い、意識を持って防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護者の利用者が入居中でもあり、研修も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時や契約時に文書を用い十分な説明を行い、また、入居後も不安や疑問にも随時説明させていくよう、職員全員で取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や家族の面会時・ケアプラン作成時に利用者・家族の意見を反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人への希望や疑問等は「給与、勤務、職場110番」が設置されており、職員は何時でも意見を言う事が出来るようになっている。また、月1回の職員会議にて意見を提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所有者には資格手当の支給があり、施設の努力の功績により、職員の手当に反映される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数に応じた研修がある。また、資格所有のための研修等を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は事業者連絡会や介護保険研究会等に参加している。また、職員は他施設の行事やイベントに参加する事で情報交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に心配事・その方の歩んできた事・考え方・要望を聞き、安心して毎日を過ごせる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時や入居時に不安や要望を漏らす事なく聞き入れ、信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が困っている事・要望を把握し、支援の方向を考えた提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今出来ている事、出来るようになった事等が継続されるよう、職員と共に1日1日を大切に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が日々の中で話される事や家族来設時に現状を伝えたり、意見や要望を伺いながら共通の意識をもつようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くのスーパーやコンビニ等に出かけ買い物を楽しみ、身内や知人との外出支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・季節の行事・食事の準備等、他ユニットにこだわらず常に交流が持てるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	止む無く移設された利用者との面会や、退去された家族からの入居希望者の紹介を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を日常の会話や他利用者との会話の中から拾い上げ、また、職員との情報交換での把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの生活歴・生活環境等を日々の会話の中から、または、家族とのやり取りから把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の1日の生活を振り返り、申し送りノートや介護記録・介護詳細に記入し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人の状態を把握し、申し送りノートや介護記録・介護詳細等も参考にしながら、本人・関係者・職員等の意見を反映し、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・介護詳細・申し送りノート等で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全ユニット一体と考え、全員がやすらぎの利用者として職員は対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加・外食・スーパーへの買い物等、暮らしを楽しむ事が何時でも出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的な医療においては協力医への受診ではあるが、本人や家族の希望により、専門の医療機関を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の訪問にて身体状況・助言・指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中訪院し、担当看護師の説明や情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いを行い、主治医との連携を図り、症状の変化に合わせて支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は、マニュアルに従い実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練にて避難方法を会得し、昼夜実行出来るように心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に合わせた声掛けをし、個人的な話は居室や事務所を利用し、プライバシーには気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を取り入れ、自己決定が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を優先し、日々の生活ペースを乱さない様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は本人に任せている。選択の難しい利用者には一緒に行っている。また、月1回の訪問理容にて希望の沿うよう行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日・季節行事には、利用者の希望を聞き、好みの物を作ったり、手作りのおやつも希望を取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分チェックをし、水分に対しては24時間何時でも接種出来るよう、テーブルにお茶の支度はしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は自分でされ、困難な方は介助している。また、本人・家族の希望により、歯科衛生士の指導を受けている方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、排泄感覚の無い方でも、トイレでの習慣が付くよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便状況を把握し、水分摂取を促したり、朝食後にトイレへ座り排便習慣が出来る様支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回だが、希望があれば入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良い安眠になるよう、日中の活動を促し、生活リズムが整うよう支援している。また、居室の温度設定・布団干し等の配慮を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は知識を持ち理解できるよう努力をしている。また、誤薬が無いよう点呼をし、確認後本人に渡し、服薬終了まで見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に出来る事・やれる事等が、希望に沿って行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿い買い物・外出・散歩・外気浴の支援をしている。家族や知人との外食の支援も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は施設側で行っているが、外出時や買い物時の支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解がある方は、電話を掛けたり手紙を書く等希望に沿う支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感があるように掲示物を利用者と共に作成し、心地良く過ごせる様心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人好みの場所で寛げるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に沿い、ベッド・テレビの配置や、入居前に使用されていた物等を、好みに合った居室にされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	本人の可能性の尊重をし、困難な方は職員と一緒に配慮しながら自立した生活を送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400146		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム袋井やすらぎの家 (3階)		
所在地	静岡県袋井市木原439-4		
自己評価作成日	平成28年10月28日	評価結果市町村受理日	平成28年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JirvosvoCd=2276400146-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街に隣接しているが、静かな環境がある。建物は田園地帯にある。春にはタンポポや蓮華の花が咲き、田植えが始まると蛙が鳴き始める。植えられた稲が日に日に伸びていく様子、風に靡く若葉やシラサギも見られる。稲穂が垂れると稲刈りが始まり、終わる頃袋井祭りがある。施設の庭で子供達が伝統的な御舞を披露される。田園の中にあるからこそ、季節の流れを目と体で感じながら生活できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春にはれんげ草、秋は稲刈りやコスモスと風物に事欠かない、自然溢れる地域に事業所があります。出迎えから共用空間に至る道筋ですれ違う職員は総じて笑顔で人柄のよさが滲み、利用者の佇まいからもものびのびとした暮らし向きが感じられます。理念「自由に ありのままに居心地の良い やすらぎの家」の実践が叶っている一方で、地域交流も「事業所前の道沿いにコスモスの種を蒔いたり」「花火大会鑑賞に近所の人が集まったり」と大変有意義に進んでいます。グループホームの原点となる食事づくり、散歩、地域交流…一つひとつ丁寧に取組もうとする姿勢が秀でていて、長年勤め続けた職員のチームワークに信頼が膨らみます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の元に、今までの生活の中で大切にしてきた物事等を理解した上で、それぞれに合った支援が出来る様心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方達と触れ合うため、散歩に力を入れている。散歩で出会った方達には必ず自分達から挨拶をする。祭典も自治会員として参加している。草刈り等も参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の周りや駐車場内のベンチで地域の方達が腰かけて話をされる事がある。時にはその方達の相談も受ける事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の推進会議での意見を尊重し、サービスの向上に活かしている。9月にお寺で音楽会の誘いを受け、利用者・職員供楽しい時間を過ごせた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議上で担当者とは意見交換したり、電話等で空き情報を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は定期的に教育を受けているので、よく理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎回朝礼・職員会議等で話し合っている。自分の行動を思い出し、身体的・言葉・態度等により、虐待をしていないか、常に意識して支援するよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で共通理解するよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全職員が理解できるように、職員会議・勉強会等で周知し、利用者・家族に説明出来る様対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者・家族との交流の中で出てきた意見を尊重し、ケアプランに反映し、担当者会議に活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や日常の会話の中からも意見や提案を聞いて、出来る事は実行している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所有者には資格手当の支給があり、施設の努力の功績により、職員の手当に反映される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A・B・AA・D・R・G課程等の内部研修や外部研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業者連絡会や介護保険研究会に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者は相当な不安を抱えた状態で入居される。職員は声掛けを多くし、話を聞く側に回り、笑顔で対応している。その中から不安や心配事を1つずつ解決していく為の支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前説明を十分に行い、施設に入るまでの苦労を労う事を忘れずに、声に出して家族に伝える。家族供多くの会話を持ち、信頼関係を築くように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と十分に話し合い、無理なく施設に慣れて頂けるように対応している。同じ事を何度聞かれても笑顔で応えられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と同じ目線に立ち、生活全般を分かち合いながら関係を保っている。食事の準備を一緒にする方、下膳・配膳をされる方等、利用者が出来る事を普通にされる毎日を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	請求書を渡す時、お小遣いを持って来た時、面会に来られた時、ご本人の希望や意見・家族の意見を聞いている。支援については、本人・家族・職員が同じ気持ちを共有して進めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人・同じ地域の人が気軽に来設されている。散歩の時に近所の方に出会ったら挨拶をしている。家族との外出の機会もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやユニット間の交流から数多くの人と出会える時間を作っている。外気浴もよく行う。う歌を歌ったり、お話をしたり楽しい時間作りをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連携支援・情報交換等に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に利用者与会話し、動向状況・希望・意向にも留意しながら支援している。困難な場合は本人にとって良い方法が見つかるよう、多方面からの意見にも目を向け、本人の意向が通るよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報・利用者の会話等から情報を把握し、日頃の経過観察を怠らない様に心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況変化を観察し、記録してケアプランに組み込み介護計画を立てている。また、今まで出来ていた事が維持出来る様気を付けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・必要な関係者との話し合いを多く持ち、職員の意見も参考にして、本人が常に真ん中にある事を意識しながら介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は詳細部分まで漏れがなく、小さな気づきも記録し必ず次の人に申し送り、全員が目を通す事になっている。情報共有が職員間で行われる事により、実践や介護計画の見直しに繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な方々の意見を聞ける気持ちや、それを受け入れる柔軟性を持ち、その時々生まれるニーズに合う支援を常に目標にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の理念に基づき支援している。施設近くの店や地場産の野菜等を利用している。また、桜や紅葉を見に行ったりと、季節の移り変わりも楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診・往診共に、本人や家族の納得の上、主治医へ受診したり、症状に応じた医療を受ける支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師来設時に情報交換や相談を定期的に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の訪印、その際の担当看護師や医師の説明を受けたり、意見交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医とも連携を図り、家族供話し合いを持ち、症状の変化に合わせて、職員を含め1つの方針に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の状態を把握して、申し送りを密に行い、急変時にはマニュアルに従い、落ち着いて行動出来る様に話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練(1回は夜間想定)を行っている。また、風水害マニュアルも作成し各ユニットに配置してある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に会話や声掛けの言葉遣いに注意し、対応には十分気を付けている。職員間でもお互いに注意しあっている。また、月1回の職員会議でも話し合う事が多く、自分が発した言葉を、他人から自分に向けて言われた時、どんな気持ちになるかを常に意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮なく自分の気持ちを言えるように、利用者から声を掛けられた時には、真摯に受け止め、丁寧にお話しよう心掛けている。また、何かを決めて頂く時は急がせず待つ事を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の個性を生かし、無理のない1日1日を尊重している。利用者も自分のペースで自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前の気慣れた洋服で生活されている。外出時は大好きな洋服に着替えて出かけられる。また、月1回の移動理容師が来設されている。髪型等も本人・家族の意見を反映させている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえから始まり、ハサミ・包丁・皮むき・盛り付け・片づけ等分担し食事作りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医とも連携を図りながら、食事量・水分量が個々に違うため、注意し対応している。必要な方には食事量もチェックしている。さらに、月1回の受診・体重測定・毎日のバイタルチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、口腔内の清潔に心掛けている。中には口腔ケアが職員だけでは十分ではない利用者がある。その方には往診での歯科医に定期的に口腔ケアに来て頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人能力に沿い、排泄表を利用し自立支援に取り組んでいる。利用者の排泄の意思を尊重しながら、早めの声掛けをする事で、利用者の失敗を少なくしていく支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便観察を行い、主治医供連携を図り、食材や水分補給に気を配り、身体運動にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日と時間が決まっているが、その中で穏やかに入浴が出来るよう支援している。また、季節に合わせた入浴剤やゆず・みかん・茶殻・菖蒲の葉等使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1年を通し季節に合った温度で過ごして頂いている。入床はこれまでの習慣に応じて自由にして頂き、穏やかな気持ちで安眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師・施設が三位一体となり利用者1人1人の症状や薬の情報を共有している。服薬時は必ず本人の前で名前・日付・時間の確認をし、服薬確認出来るまでの支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事・誕生会等、おはぎやケーキ作り・料理の手伝い・居室の掃除・草むしり等1人1人の残存機能を活かし、工夫をしながら利用者が全員参加出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴・他ユニットとの交流も行っている。お花見・ドライブ・買い物援助も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	気分転換も含め買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	声を出して本人の前で手紙を読んだり、手紙の代筆も行っている。電話も家族の許可の元利用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室と共用の空間は、エアコンにより温度調節している。空間は明るく換気が出ていて、清潔に保たれている。壁面には季節の塗り絵・写真・利用者の作品も飾り込まれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブル・椅子・ソファ・テレビ・雑誌・新聞が置いてある。好きな場所でテレビ・新聞を見たり、お話をしたり、自由に寛げる場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、自宅で使用されていた家具や大事にされている物を置く事により、落ち着いた居心地よく過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動空間を整備している。出来るだけ自立支援であるよう心掛けている。		